

宮城県塩竈からのたより

## 地震から、初めてよく眠れた セラピスト足浴しながら健康チェック

<概要>

・4月20日・21日と多賀城文化センターへ避難所訪問。  
・スケジュールとしては、自衛隊の医療班が午後に診療をおこなうため、午前:9時半~12時、夜:18時~20時の時間帯で診療・足浴を実施。

・足浴チームとしては、20日午前に39人、20日夜に56人、21日午前に30人、21日夜に52人の対応をする。

<状況>

・だいぶリピーターが多い。  
・午前中は外出される方も多く、少ない傾向にある。  
・夜は、就寝前で疲れた下肢をリラックスさせたいと利用する方が多く、大変喜ばれている。  
・21日よりリハチームができる。リハの介入としては、文化センターでは、PT宮城県士会より個別リハや集団体操などの介入があることを考慮し、足浴チームとして関わりながら、以下を重点的に行なっている。

①足浴中で診察等必要と判断した場合は、診療チームへ伝達する。

②水虫の方が多いためなるべく乾燥・清潔を保つこと、筋疲労の方も多いため、足底のセルフマッサージのポイントや足指ジャンケンなどの体操をアドバイスする。

③高齢者の利用も多いため、浮腫や可動域制限への対応も時間を少し長めにとって行なう。

④合間に各部屋を廻り、足浴の放送が聞こえない方や移動が困難な方、必要を感じていないけれど対応を要す方などを積極的に声をかける中で掬い上げ、足浴の利用を促す。

⑤ポスター作成、利用待機の方々への円滑な誘導を心掛けるなど、利用しやすい環境を整える。

⑥県士会のセラピストに個別対応してもらいたい方の情報を、施設にあるリハカルテに記入する。

<感想>

どうしても支援者メンバーが日々変わっていく現状がある反面、支援活動全体として日数を重ねている分、被災者への提供の質を下げないように配慮することが求められていると感じる。

「いつものように」と期待しておられる方々に応えることができるよう、支援初日だとしても一人ひとりが機転を利かせた具体的な行動をとることが必要であるように思う。ただ、やはり被災者の方々からいただく感想には、自分が励まされる。

「足浴を夜にしてもらったら、地震が起きてからはじめてよく眠れた」という声や、「地震が起きる前は、こんなにありがたいと感じることなんてなかった」という声もあり、利用された方々に本当に喜ばれている活動へ参加していることを嬉しく感じる。

地震で辛い目に遭っても、前向きに生きようと奮闘する姿に、生き続ける決意の頼もしさ、いつも希望を捨てない逞しさを学んだ。

支援の日数は、折り返して残り2日。

引き続き、体調を崩さぬよう、しかし沢山の笑顔で活動を続けていきます。

労働組合 理学療法士 福田広史



足湯ポスター作成し案内する福田さん(中央)

## 住民目線の復興願う

本日は足浴チームではなく長町クリニックの引っ越しのお手伝いを男性4人でしてきました。エレベーターが使えない為、手作業で3階から1階にDrの机、長いす、本棚などおろし病院の方へ運びました。クリニックはすべての撤去に5千万かかり、また新しく作るには33億円いるとのこと。引き続きフォローが必要だと感じました。他のチームの報告で、多賀城市体育館には今現在446人の被災者が、いらっしやいます。体調を崩されている方も多いため、足浴、マッサージの需要は大きいようです。1日も早い、自治体をあげての住民目線の復興を願っています。  
・4/21 玉協介護福祉士 松井博

## 東日本大震災募金集約

水島協同病院	1,346,289
玉島協同病院	804,946
健寿協同病院	339,750
ふれあい診療所	170,448
南診療所	96,933
阿新診療所医科歯科	50,393
くらしき診療所	48,588
水島歯科診療所	148,221
玉島歯科診療所	20,934
真備歯科診療所	36,000
児島歯科診療所	55,890
くらしき歯科診療所	11,789
レインボー	20,300
DC亀島	7,803
介護事業部	36,725
健康事業部	264,344
総務部	351,000
労働組合	28,000
ケアハウスちどり	51,836
合計	3,890,189

4月18日現在